

◆ 学 位	学 位 名	博士 (文学) 大阪市立大学	修士 (文学) 大阪市立大学
	取得方法	論文 平成 20 年取得	論文 平成 17 年取得
◆ 学 歴	大 学	京都外国語大学外国語学部フランス語学科 平成 15 年卒業	
	大 学 院	大阪市立大学大学院文学研究科言語文化学専攻言語情報学専修後期博士課程 平成 20 年修了	
◆ 学 内 職 務 (平成 30 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 入試広報委員 ▪ 学修ポートフォリオプロジェクト 		<ul style="list-style-type: none"> ▪ 教職協働教学タスクフォース
◆ 担当授業科目 (平成 30 年度)	<ul style="list-style-type: none"> ▪ メディア教育演習 ▪ 大学基礎演習 I・II 		<ul style="list-style-type: none"> ▪ データ収集分析 ▪ 情報処理演習 I・II
◆ 職務上の実績に関する事項 (資格,免許,特許,等)			
▪			
◆ 専門研究分野		◆ キーワード	
高等教育論	言語学	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Institutional Research (IR) ▪ 中途退学 	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 内部質保証 ▪ 言語獲得
◆ 研究概要	<ul style="list-style-type: none"> ▪ Institutional Research (IR) の理論・実践に関する研究 ▪ 幼児の言語獲得に関する研究 		
◆ 所属学会	<ul style="list-style-type: none"> ▪ 日本高等教育学会 ▪ 日本教育工学会 		<ul style="list-style-type: none"> ▪ 大学教育学会 ▪ The Association for Institutional Research (AIR)
◆ 主要著書 (5 件程度)			
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所,発表雑誌等,発表学会の名称
▪			
◆ 主要論文 (5 件程度)			
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所,発表雑誌等,発表学会の名称
<ul style="list-style-type: none"> ▪ A data-driven approach to dropout prevention: Kyoto Koka Women's University case 	単	平成 29 年 7 月 9 日	<i>IIAI International Congress on Advanced Applied Informatics 2017</i>
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 大学からの中途退学に関する日本の研究は蓄積・統合されているか：2015 年までの文献を用いた検証 	単	平成 29 年 8 月 19 日	第 6 回大学情報・機関調査研究集会論文集
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 助詞ハの獲得過程の初期に見られる特定の言語形式と談話機能に関する考察 	共	平成 20 年 5 月 10 日	ことばの科学研究 第 9 号
<ul style="list-style-type: none"> ▪ 日本語獲得児への言語入力における動詞使用の特徴：具体的な使用形式の分析 	単	平成 18 年 12 月 10 日	言語情報学研究 第 3 号

<ul style="list-style-type: none"> 模倣からみた言語獲得初期における名詞の優位性に関する実証的研究 	単	平成 18 年 3 月 20 日	言語情報学研究 第 2 号
◆ その他（5 件程度）			
書名・タイトル	単/共	発行年月日	発行所,発表雑誌等,発表学会の名称
<ul style="list-style-type: none"> Feasible ways to benchmark with inadequate database systems 	共	平成 29 年 6 月 6 日	2017 AIR Forum (Washington, DC)
<ul style="list-style-type: none"> A data-driven approach to dropout prevention in Japan 	単	平成 28 年 6 月 2 日	2016 AIR Forum (New Orleans, Louisiana)
<ul style="list-style-type: none"> 授業アンケートを教育改善サイクルに活用する：回答率を向上させ、学生から建設的な意見を得るための工夫 	単	平成 27 年 12 月 4 日	大学評価と IR 第 4 号,
<ul style="list-style-type: none"> Bridging faculty members' expectations and students' actual studying hours 	単	平成 27 年 5 月 27 日	2015 AIR Forum (Denver, Colorado)
<ul style="list-style-type: none"> Specific event schemas for the acquisition of Japanese topic particle wa 	共	平成 20 年 3 月 27 日	XVIth International Conference on Infant Studies (Vancouver, Canada)